

秋田縣會

北清所見

民設鐵道の計畫
富源を開拓して之と富強に導くは交通機關の
より急なるはなし支那が今日の社會に處し
存する處の運輸に依るは事ろ難べきのみ
漏草、劉銘傳諸氏荐に其必要な所以を建議
建設の一日も緩うすべからざるを諭したが
幸にして此利害の採用支那に於ける其他文明
と運命を同くし或は小民の業を奏ふと云ひ成
日敵に便を與ふものとなし未だ充分に其計
する能はさりしが時勢の變化は獨り支那をと
潮に超然たらしむるを得ず遂に天津より山海
の鐵路を布き此鐵路は更に之を延長して錦州
民廟、瀋陽を經て吉林に達し又枝線を設けて
なりしが去歲日清の事起り國庫の經費非常
として七萬貫(四十萬貫)を借入するに至る

方廢費賄生の事ありて功を收め難し外人に托して鐵道
を築かしむるに下策なり近來の洋商貿易甚くなし容易
に事を托すからん言工事を督も民みれを築造するは
中策なりと雖も政府一金を費さずして成るが故に下策
の思なく上策の功あらず臣等又計るも練兵籌餉の事は鐵
道より先なる改なし何となれば鐵路一里壯丁十人を要す
め五里を一哨置し十里を一小營とし五十里を一大營
とし百里を一總營とし事なれば真守りに資し事わかれ
ば練りて國防となるば則ち自合の衆にあらずして路皆
兵なり若し夫れ籌餉の説は毎路の運賃八割を商に歸し
二割はみれを官に致さん或は云ふ鐵路一たび開けば沿
道の小民爲めに業を失ふもの多からんと然れども鐵路
を設設して天下樂聞の先駆となり而して各省の民風を開き
一たび開けば運賃日々多く小民の之が爲めに業を得る
もの益々多きを加へん顧くは京の東西兩路二三百里を
見當なるものを見るに左の如し

父以て國庫の收入を益するものを見るに左の如し。

より房山一帶鐵廠に通する支線を設くる事
一は廣渠門(北京東外城門)外より東天津に至るを幹
線とし又廣渠門より通州の南に至る支線を設くる事
前記各幹線は各々長さ三百里(凡そ百哩)支線は各
々四五十里(凡十四哩より十七哩)とす

二、株は一株を一百兩とし廣く之を募集する事、終
する所の購地代、作工代、築橋、軌道、運賃、停車場等
経費毎里(清里)一千兩とし鐵路の需銀は毎里五千兩
とす地所は每畝(日本の八畝程)十五兩を出でざるべ
く地所其他の物件を會社に容るゝものは之を評價して
株金に編入する事を得せしむ

三、鐵路元と站丁看役を要す毎路一里例十人を用ひ
て一棚とし五里と一鋪となし十里を一小營とし五十
里を一大營とし百里を一總とし通計夫役千五百名を
要す依て園丁、園長、園正、園總を撰び以て合繩の事
を練らしむる事

四、直省河道多しと雖も惟深河水定津沱の三を最
とす他の建橋甚易く工作早きを期し難きにあらず
五、近畿東西の兩幹は最要にして辨し易し若し成
宜しきを得ば次第に請みて東江淮に達し西川楚
及ばさん若し數年之後我中國全境路々皆通ずれば
ち餉源不足の虞なく兵機製肘の患なし豈に長治久
の策にあらずや

右の外資本の總額利益の計算より鐵路の幅員等に至
ては一も知るを得ずと雖も若し此鐵道の布設を見る
至らば東、天津に出づるものは津逮鐵道と合して更
吉林に至るの鐵道となるべく西、保定府に至るもの
の軌道と採用せん其利益の如きは概算するを得ずと
も此線路の如きは尤も有利の事業なるを失はざるべ
時天津山海關の鐵路即ち一米突四十四サンチメート
明なり保定府は直隸の首府にして重山、西に轉うる
川東に流れ地脉豐饒商賈繁昌、謂、黃芽茶、鐵、肉桂

卷之三